

# 農業と科学

1983  
2

CHISSO-ASAHI FERTILIZER CO., LTD.

## 57年度の農業所得は わずかに増加しよう

— 農業観測の修正見通し —

農林水産省大臣官房調査課

田村修一

農林水産省は昨年12月に、昭和57年度農業観測修正見通しを公表した。以下は、その概要をとりまとめたものである。

### 1. 農業生産

57年度の農業生産は、耕種生産では低温、台風等の影響を受けたものの引き続き増加し、養蚕は引き続き減少し、畜産も依然需給調整過程にあるなかで大きな伸びが見込まれないことから、全体としては2~3%程度の小幅な増加にとどまるものと見込まれる。なお、米を除く農業生産も、3~4%程度の増加と見込まれる。

#### (耕種生産)

米は作柄が「やや不良」になったものの、不作であった前年に比べれば、0.1%の増加となった。

その他の主要作物では、ばれいしょ、大豆、小豆、てんさいが増加、かんしょ、茶、らっかせいが減少となったほか、果実は7~9%程度増加、野菜は2~4%程度増加すると見込まれる。以上から、耕種生産総合では前年度に比べ、2~3%程度増加すると見込まれる。

#### (畜産)

養蚕農家や桑栽培面積の減少に加え、台風等により桑が被害を受けたことから、前年比2%減少した。

#### (畜産生産)

肉用牛はほぼ前年度並み、豚は1~3%程度増加、ブロイラーは3~5%程度増加、生乳はわずかに増加、鶏卵は2~4%程度増加すると見込まれる。この結果55、56年度と停滞的に推移した畜産生産総合は、2~3%程度増加すると見込まれる。

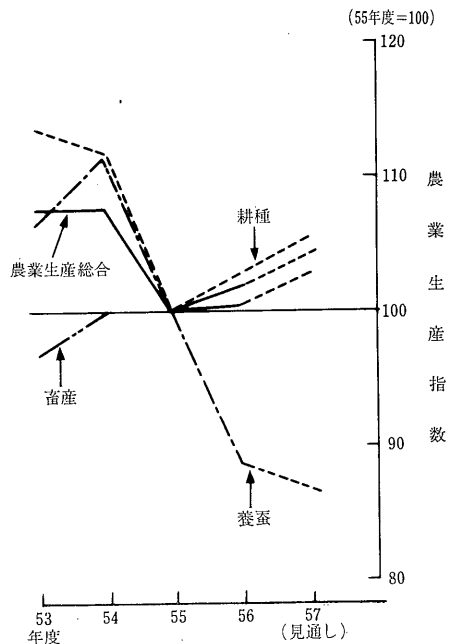
### 2. 農産物生産者価格

57年度に入ってから農産物生産者価格は、4~6月期に前年同期比4.0%の下落のあと、7~9月期には同2.0%の上昇となり、上期を通じては同1.1%の下落となった。下期については、以下のとおりである。

#### (畜産物)

前年同期に比べ、ブロイラー、鶏卵が下回り、肉用牛

### 農業生産の動向



## 本号の内容

- § 57年度の農業所得は  
わずかに増加しよう……………(1頁)  
農林水産省官房調査課 田村修一
- § 土・草・家畜とミネラル(1)……………(3頁)  
農林水産省草地試験場土壌肥料第二研究室長 吉野 実
- § サイレーシング用トウモロコシの  
安定・多収栽培……………(5頁)  
① 有利性と高エネルギー生産  
農林水産省草地試験場生理第三研究室長 飯田 克実
- § コーティング肥料を用いた  
ヒノキ林の植穴施肥試験……………(7頁)  
静岡大学農学部教授 伊藤 忠夫

がほぼ横ばい、肉豚、生乳が上回るとみられ、総じてみれば回復に向かい、わずかに上回ると見込まれる。

#### (果実・野菜)

果実ではみかんが前年同期をわずかに下回り、りんごが、かなりの程度下回るとみられる。野菜はたまねぎ、ばれいしょの安値等から下回るとみられる。

#### (行政価格)

米の政府買入価格が1.1%の引上げ、加工原料乳の保証価格が0.6%の引上げとなったが、麦の政府買入価格、大豆の基準価格は据え置かれた。

以上のことから、57年度の農産物生産者価格は、需要が回復の方向にあるなかで、農業生産が2~3%程度増加すると見込まれることからみて、年度間では前年度に比べ、0~1%程度下落の弱含みになると見通される。

### 3. 農業資材価格

農業生産資材の農村価格は、55年度に前年度比11.7%高のあと、56年度に入ると、一般卸売物価が安定した動きを示したことや、海外原材料輸入価格も、総じて弱含みで推移したなどから、ほぼ横ばいで推移し、年度間では前年度に比べ3.2%高と、上昇率が大きく低下した。

57年度に入ってから、一般卸売物価が引き続き安定した動きを示したことや、円安基調にあったものの、海外原材料価格が総じて弱含みで推移したこともあって、前期比で4~6月期0.3%高(前年同期比1.0%安)、7~9月期0.6%高(同0.3%高)と落ち着いて推移した。この間、7月に配合飼料の工場建値が約3.8%引き上げられたが、肥料の生産業者販売価格は平均3.3%引き下げられた。

57年度下期の資材価格は、① 飼料は、飼料穀物の国際価格がアメリカの豊作見込み等を反映し、夏以降下落したことから、農協系統が配合飼料の工場建値を10月に約5.3%引き下げた。このため、下期前半は、弱含みに推移するとみられ、下期後半も飼料穀物の国際価格の動向等からみて、おおむね安定的に推移するとみられる。

② 肥料は、上期後半の水準で推移するとみられる。③ 農業機械は、一般卸売物の動向や需要の停滞等からおお

むね安定的に推移するとみられる。④ 農業は、58農業年度の製造業者販売価格(57年12月~58年11月の間適用)が、平均1.3%引き下げられた。⑤ また、その他の資材も、最近の一般卸売物価が落ち着いて推移していることなどから、円相場等の動向に不確定な要素はあるが、おおむね安定的に推移するものとみられる。

57年度の農業生産資材価格(総合)は年度中はほぼ横ばいで推移し、年度間ではほぼ前年度並みと見込まれる。

### 4. 農家経済

農家経済は57年度上期の収支としてみれば、農業所得が、農業粗収益の伸び悩みから減少し、農外所得がほぼ前年度並みの伸びとなった等から、農家総所得では、前年同期比4.4%の増加と低い伸びにとどまっている。

地域別動向は、農業所得(現金収支)は野菜、畜産収入の動向等を反映して、関東、東山、東海、中国等では減少しているのに、北海道、東北、北陸等では増加している。農外所得は前年度減少ないし伸び悩んだ北海道、東北、東海、中国では比較的高い伸びとなっている。

57年度を通じた農業所得は、① 農業粗収益面では、みかん、りんご収入の伸び悩み、野菜収入の減少はあろうが主体を占める稲作収入は増加するとみられ、畜産収入も、年度間では増加するとみられ、農業粗収益は3%程度の低い伸びにとどまろう。② 農業経営費面では、農業生産資材の農村価格は、下期も引き続き落ち着いて推移するとみられ、農業生産資材の投入は、下期も伸びは鈍化しようが、引き続き増加しよう。

また、固定資産の償却費は前年度の伸びを下回る増加とみられ、農業経営費は3~4%程度の増加と見込まれる。全国1戸当たり平均でみた農業所得は2%程度の増加と、前年度に引き続き低い伸びが見込まれる。

農外所得については、下期も一般賃金の伸び悩みはあるものの労働力需給が改善されるとみられることから、ほぼ前年度並みの伸びが見込まれ、年度間では、ほぼ前年度並みの伸びと見通される。農家総所得も前年度の伸びとほぼ同水準の6%程度の増加と見込まれる。

昭和57年度農業観測修正見通し総括表

	対前年度増減 (▲)率(%)		57年度見通し(前年度対比)	
	55年度	56	当 初	修 正
実質飲食費支出	▲ 0.3	0.2	前年度の伸びを上回りわずかに増加	2%程度増加
農業生産	▲ 7.1	2.0	前年度に比べやや増加	2~3%程度増加
農産物価格	3.7	2.8	米、麦を除く農産物総合ではほぼ前年度並み	0~1%程度下落
農業生産資材価格	11.7	3.2	わずかに上回る	ほぼ前年度並み